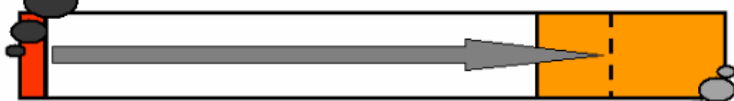


週刊 タバコの正体

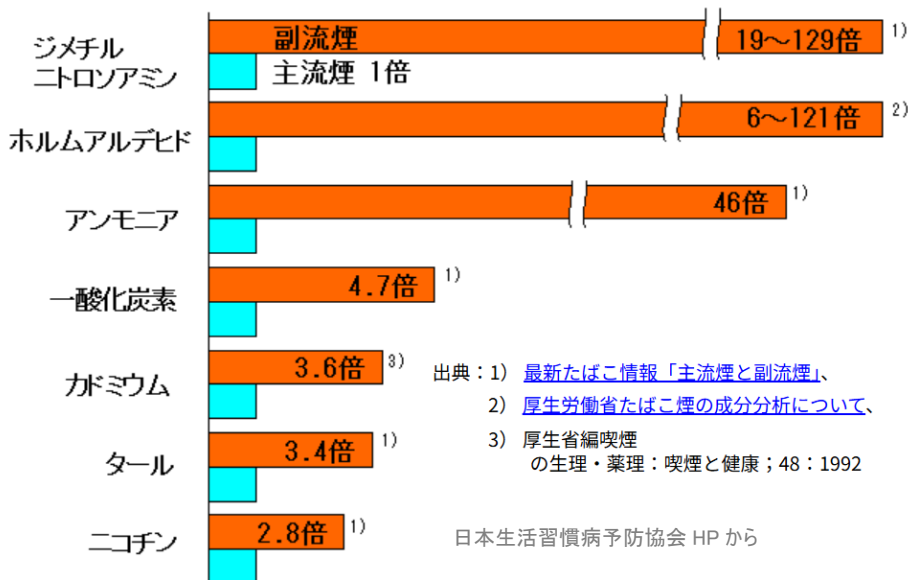
副流煙は主流煙より有害です



煙を吸っていない時、
タバコの先端の温度は
500℃程度である。



煙を吸いこむ時、
タバコの先端の温度は
900℃にも達するため
発癌物質も分解される



加熱式ではない紙巻タバコは、火がついている間はずっと煙が出続けます。そのうちで喫煙者が吸い込んでいる時間は、わずかです。

じつは、喫煙者が吸い込む煙（主流煙）は意外に有害物質濃度が低いのに対して、火のついた先端からゆらゆら立ち上る煙（副流煙）の方が高い事を知っていますか。

これは、左図にあるように燃える温度の違いに加え、主流煙はフィルターを通過するからなのです。その濃度の違いを示すグラフを見て下さい。なんと、副流煙の濃度は主流煙の100倍以上の物質もあるのです。

そんな高濃度の有害物質を含む煙は喫煙者の周辺に広がり、近くにいる人たちが吸ってしまいます。これが受動喫煙と呼ばれる現象で、喫煙者よりも危険な煙を吸わされているわけです。とんでもなく迷惑な話ですよ。

紙巻タバコの副流煙は特に有害ですが、加熱式でも喫煙者が吐き出す煙（呼出煙）が周辺に広がりますので、近くの人に受動喫煙をさせているのです。

自分がタバコを吸うと、誰かに吸わせてしまう事を心得ておかなければいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久

